



代時原藤



王天二右左



寶國 薩菩薩地 寺口山張荒村勝金

『近江栗太郡志』に掲載された旧山口寺の仏像1

本市南部の金勝山に建つ金勝寺（荒張）へ参詣する道沿いには多くの寺があり、古くから金勝寺を取り巻く仏教文化圏を構成してきました。金勝寺へと続く西参道の尾根筋の先、荒張の目相と呼ばれる地区にあり、平成時代の初期に廃寺となつた旧山口寺もその一つです。

ささやかな小堂ながら、重要文化財に指定されている木造地藏菩薩坐像（平安時代）を始めとする諸仏像や、鎌倉時代に建てられた石造宝塔（市指定文化財）を伝えるきた旧山口寺ですが、その歴史について詳しいことは明らかではありません。木造地藏菩薩立像は明治33年（1900）に重要文化財に指定されており、その前年には修理を受けた記録があることから、伝来した仏像が古くから注目されていたことがうかがえます。

大正15年（1926）に刊行さ



代時仁弘 奉如師梁 代時原藤 王明動不寺口山

『近江栗太郡志』に掲載された旧山口寺の仏像2



発見当時の四天王像1軀分

れた『近江栗太郡志』には、地藏菩薩以外にも「薬師如来、不動明王、広目天、增長天の四古仏あり」と記されています（なお、昭和59年（1984）に、栗東町史編さん事業の一環として調査が行われた時点では、薬師如来以外の4軀の仏像が伝来していました）。

栗東歴史民俗博物館が平成4年（1992）に調査を行った際には、四天王像のものとみられる部材が多数発見されました。それらを組み合わせると、『近江栗太郡志』で「広目天、增長天」として紹介されている2軀の部材を補うことができたほか、これまで存在が知られていなかった四天王像1軀分が姿を現したのです。いずれも平安時代にさかのぼるこれらの像は、平成7年（1995）に開館5周年を記念して開催された「金勝寺展」に出陳され、平成10年（1998）には滋賀県指定有



組み上げられた四天王像1軀分（滋賀県指定有形文化財）

形文化財として指定されています。旧山口寺に伝来した文化財は金勝寺の所有となり、石造宝塔は金勝寺里坊に、地藏菩薩と不動明王は金勝寺本坊に移されたほか、四天王像はいずれも栗東歴史民俗博物館に寄託され、現在に受け継がれています。

■収蔵品展「文化財をつなぐ―修復文化財の世界―」

収蔵資料から、さまざまな事例をとおして、文化財の修復について紹介します。旧山口寺に伝来した四天王像も展示しています。

会期 2月25日(日)まで
※詳細はお知らせ版8ページをご覧ください

栗東歴史民俗博物館

TEL 554-2733

FAX 554-2755

令和4年度スローガンコンテスト

努力賞 マスク越し 目元の笑顔で 気分晴れ